

山陰道の早期整備について

中国部会提出
説明担当 益田市

山陰道は、日本海国土軸の中心的役割を担い、山陰の都市を結ぶ自動車専用道であり、島根県内各都市間の連携を深め、交流を活性化させるとともに、道路網のネットワークを形成することで、県外の主要都市圏との交流も盛んになることから、地域住民の豊かな生活の実現と自立的発展を図るために最も基本的で、欠くことのできない社会資本である。

近年では、毎年のように豪雨災害等が起こり、国道の通行止めやJRの不通など大きな被害が発生している。改めて災害に強い「命の道」である山陰道の整備が喫緊の課題であることを痛感している。

高速道路は、ネットワークが完成されてはじめてその効果が発揮されるが、現在の山陰道における供用区間は、約56%となったが、全国平均と比べても大幅に遅れているのが実情である。三隅・益田道路については、昨年11月に起工式が行われ本格的に工事が始まったことから、一日も早い整備が期待されている。一方、山口県につながる県西部の幹線道路である国道191号は、日本海に並走し、越波や自然災害でたびたび通行止めが発生する安全性、確実性に欠けた道路である。昨年4月に、優先整備区間として選定された小浜～田万川間の早期事業化と、その他の区間についても早急に事業化に向けた手続きを進めて頂きたい。

ついでには、国土を強靱化し、均衡ある発展を実現するため、また、国民の生命・財産・地域コミュニティを守る生活基盤を確保し、産業基盤を強固にするための高速道路ネットワークの構築を、国の責務として優先的に取り組み、山陰道の日も早い全線開通によるミッシングリンクの解消に向け、整備促進するよう強く要望する。